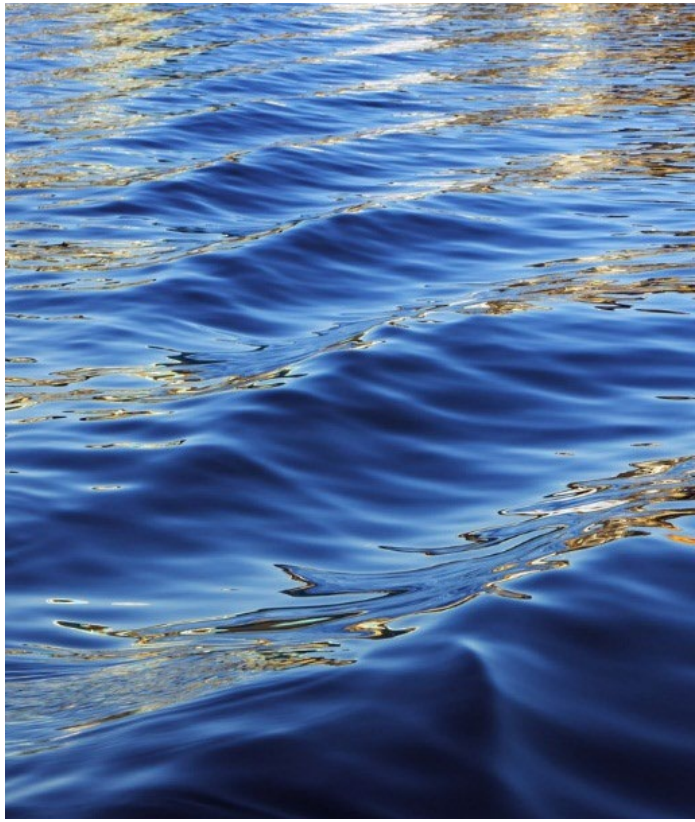
令和４年度第３回GFVC協議会セミナーコメント

GFVC代表　深川由起子（早稲田大学）



青果物にとってのEPA

- 変わる農水産貿易の価値
  安価・安全・美味＋安心・安定の時代へ（地政学的リスク、感染症リスク）→ 官民包括交渉としてのEPA
- 貿易ルール交渉の包括性：関税（→安価）、検疫（→安全）、美味（→流通/広告）＋安心・安定（食糧安保、信頼できる供給網構築）
- 貿易ルールは可変的（見直しを経て進化）
- 重要な原産地証明：Free rideの防止（レベルは自由化水準を左右（自己証明））、使い勝手で事業性を左右（速度（＝新鮮、食味）の重要性、国内の追跡情報との連動で新しい付加価値を
- カギを握る官民協調：生産者、貿易業者からのアイデア吸い上げ

青果物の輸出戦略

- 圧倒的なリンゴのシェア：季節性、食味、多様性、一定のVC → 類似事例の発掘（ぶどう？柿？ながいも？柿？ミカンの課題？）
- 圧倒的なアジア市場：EPAのない台湾の経験＋香港の総合マーケティング（流通、旅行、飲食店）→中国へ
  （時間はかかるが、RCEPで関税は下がる）、ASEAN市場へのEPAフル活用を（タイ、シンガポール）
- 輸入してこそ輸出も増える（台湾：パイナップル、バナナ、ロンガン…）
- 限界ビジネスを超えるには？：ブランド戦略だけでよいのか？量産供給能力見通し、省力化/自動化/DX

ヴィエトナムの事例：EPAはビジネスである

- 何故、「日本産であることの知名度」が重要なのか？、ヴェトナムの消費者にブランドは必要か？（青果物に対する消費水準の段階、食文化）→「政府広報」ができること、マーケティング事業ができることの区別を
- 貿易手続き：事例の情報把握は重要（担当当局の役割）、だが対応がビジネスに役に立つのか？→ 解決策、今後見通しについての情報こそが重要
- 重要なビジネス情報：日系流通業者が抱える問題は何か？
  ライバル国はどう接近しているか？（韓国の梨：高級感と安全性）、現地のマケ企業の能力、物流サービス（CVC)、「経済協力」の活用（「農業研修生」人材？、中国への輸出拠点？）

「進化するEPA」とGFVC協議会

- EPAにもPDCA検証を：Plan（計画）、Do（実行）、Check（測定・評価）、Action（対策・改善）

  → アジアEPAの原産地証明問題

- 空前のビジネスチャンス：関税引き下げ、円安、急速なアジアの賃金上昇（タイの最低賃金は日本より上）、信頼価値網の広がり

  → 異次元の集中的取組みの必要性

- DXで内外をつなぐプラットフォームを（追跡情報から関税、検疫情報までをつなぐネットワークを）